

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記号正誤・記述設問・論述

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年と同じ3題であったが、論述の総字数は昨年の900字から950字にやや増加した。

昨年に比べてやや易化した。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年に続いて資料・図版を使用した問題が出題されたが、解答するのに図版を読み取る必要はなかった。

昨年に続いて短文の正誤を判定させる問題が出題された。

中世以前からの出題がなかった。

その他トピックス

昨年に続いて、大問3題のうち1題が文学部と別の問題で、他の2題が共通問題であった。

新課程の必修科目である「歴史総合」を先取りする日本史からの出題があった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
(I)	論述	アメリカ合衆国における黒人問題の歴史的経緯	17～20世紀のアメリカ合衆国における黒人問題の歴史的経緯を、その起源、19世紀と20世紀の制度変革に言及しつつ説明する問題。17世紀の13植民地におけるタバコ＝プランテーションでの黒人奴隷使用から書き始め、19世紀の南北戦争後の憲法修正による奴隷制廃止、20世紀の公民権法制定を中心に書けばよい。最後になお差別が残っていることにも触れたい。 300字程度。	標準
(II)	記号正誤 論述	オランダ東インド会社関連史(図版使用)	問1 17世紀のバタヴィアに日系人女性が暮らしていた背景について、日本、オランダ、バタヴィアの関係を考慮しながら論じる問題。問題文にある「日系人のクリスチャン・コミュニティ」の語と江戸幕府によるキリスト教の禁止を結びつけて考えられるかがポイント。 100字程度。 問2 17世紀のオランダ東インド会社がどのようにして富を築くことができたのかを、「銀」「香辛料」「商館」の語を用いて説明する問題。問3の選択肢の文章がヒントになる。 150字程度。 問3 近世におけるオランダ以外のヨーロッパ諸国によるアジア地域との貿易に関する短文から、正しいものを選ぶ問題。短文は4行にわたっているが、誤りは比較的見つけやすい。 問4 18～19世紀における、女性の権利に対する見方の変化に影響を与えた事象について記した短文から、誤っているものを選ぶ問題。選択肢ウは20世紀の総力戦の説明なので、時期が違くと判断できる。	標準

(Ⅲ)	記述設問 論述	孫文「大亜洲主義」 講演に関連した世 界情勢・アジア情 勢 (資料使用)	問1 日本の不平等条約改正について、新たな条約名と改正内容を簡潔に説明する問題。新たな条約である日英通商航海条約は、日本史の教科書には記載されているが、世界史の受験生には難しい。 問2 日露戦争における日本の勝利に影響されて起こったアジアの民族運動を一つ挙げる問題。 問3 第一次世界大戦後の世界情勢・アジア情勢について説明する問題。孫文の講演の趣旨を踏まえて書くことが求められており、何をどこまで書くべきか迷う受験生もいたであろう。 200字程度。 問4 中華人民共和国成立直後からソ連崩壊までの、中国とソ連との関係の変遷を論じる問題。中ソ友好同盟相互援助条約からゴルバチョフ訪中まで、同盟関係から対立、衝突を経て関係改善にいたる変遷を述べればよい。 200字程度。	やや難
-----	------------	--	---	-----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年の傾向として資料・図版や表・グラフなどが使用されており、戸惑うかもしれないが、問われているのは教科書をしっかり学習していれば十分対応できる内容である。ただ、そのためには資料が何を述べているのかを読み取る国語力、図版や表などから得られる情報と歴史的知識を総合して考える力が必要である。出題地域はアジア・欧米と幅広く、時代的にも古代から現代に及ぶので、教科書中心の丁寧な学習を心がけたい。手薄になりがちな東南アジア史・内陸アジア史・戦後史もしばしば出題されるので、おろそかにしないこと。論述問題については、過去問を参考にして十分に練習しておこう。